

☆☆☆ Library Eye 2021 ☆☆☆

クリスマス増刊号 2021年12月17日(金)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



🎄 メリー クリスマス! 🎄



いよいよ年末到来です。今年は皆さん、どんな一年を過ごされたでしょうか。

図書館では、先月17日に、毎年恒例のXmas Treeを飾りました。今年のツリーは青を基調とした飾りつけです。和やかな雰囲気の中でも落ち着いて、凜と気持ちが引き締まるイメージにしました。

12月に入ると瞬く間に日々が過ぎ去りますが、忙しい中でも家族や大切な人を想いながら心豊かに過ごされますように。また、コロナ禍の脅威に屈することなく落ち着いて休暇を楽しめますよう、祈りをこめて…。

【X'mas 企画★ブックカバー】



ただ今、本を借りた人限定で、希望者に特製ブックカバーをプレゼント中です!!! デザインは4種類。サイズは、新書&文庫用と、単行本用の2種類あります。一番の人気は青いデザインのもので、どちらのサイズも、よくリクエストされます。

一度の貸出につき1枚プレゼントです。カバー以外でも、工夫次第で自由にお使いください。



Xmasに関連した本も展示しています!

【冬休み特別貸出 スタート～ひとり10冊まで貸出できます♪】

13日(月)から、冬休みに向けて、ひとり10冊まで図書館の本が借りられるようになりました。

返却日は来年1月11日(火)です。第6波が懸念される冬休み、暖かなお部屋でゆっくと、ご家族揃って読書を楽しんでいただけたらと思います。1月8日(土)7時00分から開館します。

【「センセイ」と呼ばれて・・・】

ご存じでしょうか、私たち教師には何種類もの呼称があることを。

「教師」「教職員」「先生」「教育者」「教諭」「師」-----。

でも、生徒たちは私たちのことを「センセイ」とだけ呼びます。ですから、いやしくも「センセイ」と呼ばれるかぎり、目の前で転んで助けを求めている生徒がいたら、なにを置いても全力で助け起こさなければなりません。それこそ「センセイ」の仕事なのです。会議があっても、仕事が忙しくても、そんなことは関係ないのです。後で自分が悪く言われようとも、なによりも助けを呼んでいる生徒を助けなければなりません。

子どもに、ウソをつかない、ごまかさない、えらぶらない、悪い言葉を使わない、忙しいと言いつつしない、にらまない----- 簡単そうなのですが、はたしてこれらのが実行できているのか、そんなことを考えさせられる小説が重松清の『せんせい。』です。



【夢のある「ことば」を語ろう!】

「あなたに日本一は無理だと思ふよ。分ちゃん、心が温かくて一生懸命だから、いい先生にはなる。でも、あなたの言葉には夢がない。力がない。迫力がない。そういう指導者の下で日本一にはなれない。」

国分秀男氏は、古川商業高等学校の女子バレーボール部を率いて県大会以上の優勝150回、全国大会出場77回、全国制覇12回という名将です。その国分氏がまだ若かりし頃、白鷺女子高等学校に奉職し、当時、卓球部の名監督として全国にも知られていた近藤欽司監督の下でチームづくりを勉強していました。

4年間お世話になって、いよいよ古川商業に赴任することが決まって「私も古川で日本一になれるように頑張ります」と頭を下げたとき、近藤監督から言われたのが、この言葉でした。「おう、君ならなれるぞ」という言葉を返してくれるものと期待していた国分氏は、この厳しい一言に胸をえぐられるような思いがした、と言います。

私たちは、いつも「子ども」という、かけがえのない未来と向きあっています。 その未来を夢にあふれた世界にできるかは、最も身近にいる私たち大人が語る「ことば」に掛かっているのではないのでしょうか?

【文学のふるさと!】

『フランダースの犬』と言えば、日本ではアニメ化もされ、多くの人々の袖をしばった名作として知られています。ところが、この小説の舞台となったベルギーでは、さほど人気は高くなく、むしろ「負け犬の話」として流布しているといえます。一方、アメリカでは「かわいそうすぎる」ということで、クリスマスの朝に愛犬のパトラッシュと抱きあうようにして死んだはずのネロが息を吹き返す、というハッピーエンドに改変されたとのこと。実に、お国柄、という他はありません。

無頼派の作家として知られる坂口安吾に「文学のふるさと」という随筆があります。以前は教科書にも掲載されていましたが、この中で安吾はシャルル・ペローの『赤頭巾』を例に挙げ、「救いが無いということ自体が救い」であり、「私は文学のふるさと、あるいは人間のふるさとを、ここに見ます」と語っています。

むごたらしく救いが無いということ、モラルがないということ-----それこそが文学を生み出す「ゆりかご」であり、文学の出発点だということです。

その暗黒の、どこまでも果てしない荒野へと踏み出す勇気を、どのように培うのか、そこにこそ教育の第一義があるのではないのでしょうか。

よいお年を、お迎えください!!!

